

自動運転バスは、
“横に動くエレベーター”

日本全国から期待の声

全国普及への壁突破
= 産業として成長させる条件



~2022
4地域 実用化!

2023
10地域



~2025
50地域

国交省の補助事業や規制緩和・制度整備のおかげで
先行50地域は実装できそうだが...

技術や法律よりも
ビジネスモデルの方が
深刻な課題

ロマンチックすぎる

例)カメラだけで信号通過、言語道断!
信号~車の協調を通信で実現した方が確実。
終わりがなき標準化議論をやめ、現実的手順を決めよ

→2030年時点の普及技術に目処が立つ

課題4

お金の話が後回しになっている

お金のない地域ほど自動運転バスが必要...
車・インフラ投資の財源をどの省庁が持つ?
誰が管理する? 決めれば済む話!!

→市場規模が見えると企業参入も加速する

技術

法整備

ビジネスモデル

課題1

課題2

課題3

Nice!なポイント

(例) 茨城県境町は運賃無料
自動運転バスに5億円投資し
1年で7億円以上の経済効果!

Nice!なポイント

国交省・警察庁などの
レベル4制度整備は他国より早い!
規制改革もパワフル!

車側の責任が重すぎる

自動運転バスへの飛び出しや
道路に寝てる人への法的解釈の変更を!
(電車の場合と一緒にいい)

→メーカー責任範囲を限定すれば、
市場に製品投入するスピードがUP!

地域交通の価値が軽視されている
運賃主義からの脱却を!!

赤字補填ばかりではバス廃線・減便は止められない。
地域交通がもたらす経済波及効果を計算したうえで、
国民に必要なモビリティを供給する予算をまるごと確保せよ。
自動運転による生産性UPの恩恵を労働者へ必ず還元すること。

→地域交通をDXで再び人気・成長産業に!!